



国際共同臨床試験をめぐる 諸課題と今後の展望

世界の約7割の胃癌が発生しているアジア地域は、胃癌治療のグローバルスタンダードを確立する上で重要な役割を担いうと考えられるが、これまでの国際共同試験は欧米諸国が主導権を握ってきた。しかも、日本では臨床研究の倫理指針が改正され、医師主導の市販後臨床試験はこれまで以上に展開が困難な局面を迎えている。本座談会では、アジアや欧米との国際共同試験にかかわってこられた先生方にご参加いただき、これまでの成果や問題点を共有し、今後アジア諸国がより主体的な役割を果たすために必要な改善策、臨床試験におけるゲノム医療などについて議論いただいた。

(開催：2016年3月)

〈司会〉

吉田和弘
Kazuhiko YOSHIDA



岐阜大学医学部腫瘍外科学教授/
岐阜大学医学部附属病院がんセンター長

大津敦
Atsushi OHTSU



国立がん研究センター東病院病院長

朴成和
Narikazu BOKU



国立がん研究センター中央病院
消化管内科長

辻仲利政
Toshimasa TSUJINAKA



市立貝塚病院名誉院長・顧問